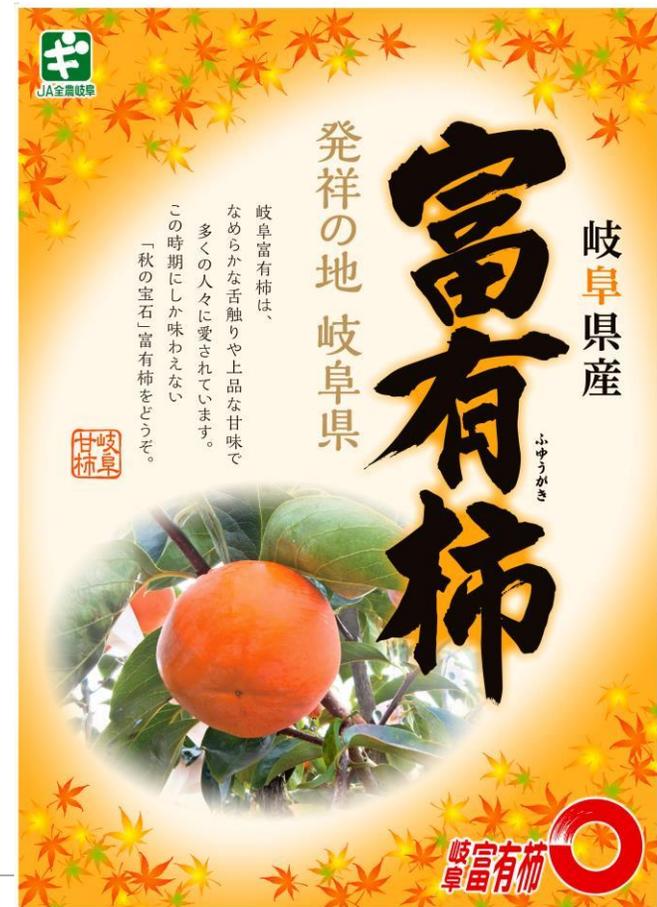


岐阜柿 輸出拡大の取り組み



岐阜県農林水産物輸出促進協議会

(事務局: JA全農岐阜 アグリ支援課長)

早川 雅人

組織の概要

- 設立年度：平成16年度（事業開始から21年目）
- 設立目的：
岐阜県産農林水産物の新たな市場開拓としてアジア地域を中心に有望視される世界各地への輸出を促進し、もって県農業及び食品産業の振興を図る。
- 協議会会員：
岐阜県漁業協同組合連合会、岐阜県食品産業協議会、岐阜県商工会連合会、飛騨ミート農業協同組合連合会、飛騨牛銘柄推進協議会、岐阜県園芸特産振興会、ぎふクリーン農業研究センター、JETRO岐阜貿易情報センター、岐阜県産業経済振興センター、岐阜県観光国際部・農政部、全国農業協同組合連合会岐阜県本部 計11団体

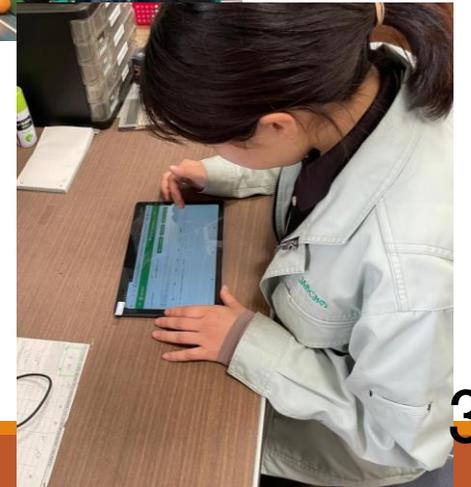
事業の概要

- 市場開拓に向けた岐阜柿をはじめとする岐阜県産青果物や飛騨牛・岐阜鮎の海外販売プロモーションを実施



アグリ支援課の概要

- 事業の領域：輸出事業、農福連携事業、労働力支援事業、JA支援事業、DX推進事業



岐阜柿の概要

➤ 令和5年度の生産状況（JAグループ扱い）

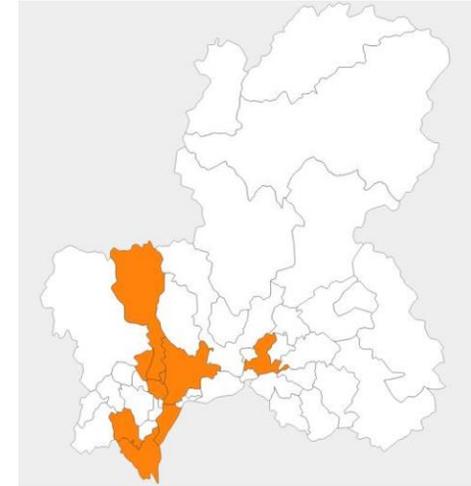
生産地域 : 岐阜地域、西濃地域、中濃地域

作付面積 : 444ha

経営体数 : 1,548経営体

作柄 :

- ・過去10年間で最も産地出荷量が少ない年となった。
- ・5月の低温 → 開花期の受粉不良による着果不足
- ・6月の長雨 → 生理落果の増加
- ・8～9月の高温、少雨 → 果実肥大の停滞、日焼け果、シワ果
- ・11月の高温 → 着色遅れ



天下富舞の概要

- 岐阜県農業技術センターが開発した「ねおスイート」の中から糖度などの項目が一定の基準を上回った果実にのみ与えられる高級ブランド柿の名称。
- 糖度は20度以上（一般的な柿は15度前後）。
- 令和5年11月2日に行われた初競りでは、最高等級の「天下人」が2玉108万円（税込）で競り落とされた。



輸出に至った経緯



➤ 富有柿:

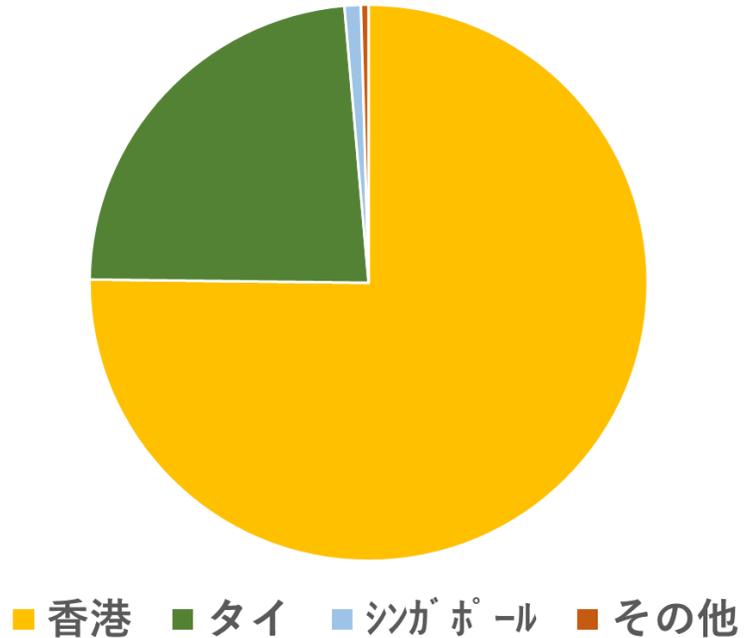
- ①国内価格安定のため、市場隔離(販売時期、距離、下位等級品の隔離)が必要だった。
※品目の特性上、全国的に出荷ピークが集中しやすい。
- ②冷蔵柿に加工し、年末年始や春節を狙った販売体制を構築することで有利販売に繋がりたいと考えた。

➤ 天下富舞:

海外富裕層をターゲットに有利販売に繋がりたいと考えた。

輸出先の現状

当協議会輸出先
(過去3か年(3~5年度)実績割合)



- メインの輸出先は香港(75%)であるものの、近年は現地の経済状況の悪化や消費者行動の変化により、割合としては減少傾向。
- 減少する香港に替わる仕向け先として、衛生基準の強化にともない輸出量が減少していたタイをターゲットと定め、「GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクト」を活用した「タイ向け輸出柿選果こん包施設登録」をすすめた。

GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの取り組み①

出荷対策



- 「タイ向け輸出柿選果こん包施設登録」を通じたタイ向け輸出対応産地の拡大。

4年度	5年度
県内JA 1施設	県内JA 3施設 A社(中間拠点) 低温加工場

- タイ向けに輸出可能な栽培面積の拡大

4年度	5年度
123ha	388ha

- タイ向けに輸出可能な生産を行う農業者の増加

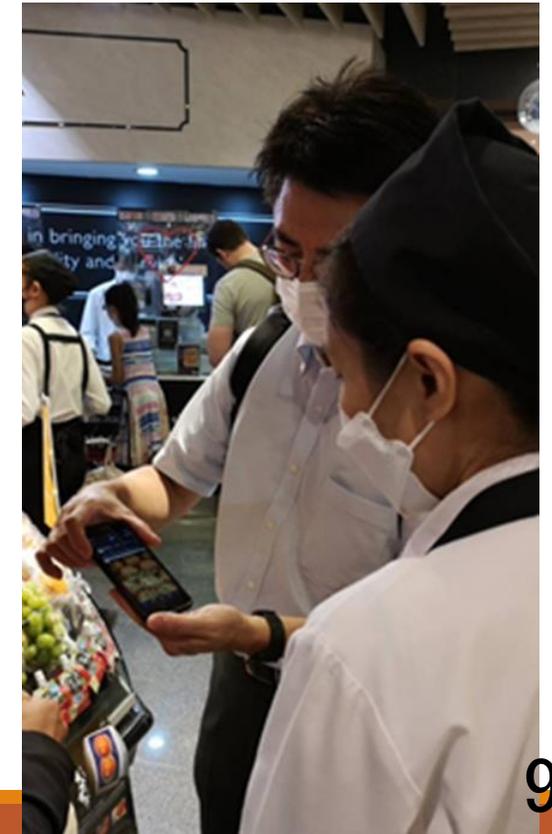
4年度	5年度
364経営体	1,291経営体

GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの取り組み②

販売対策

- 現地インフルエンサーの活用や現地消費者が魅力を感じるデザインの宣伝資材作成など販売プロモーション活動の実施を通じた売り場確保をすすめた。

【Total View】 576,785



GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの取り組み③

実績

- 国内の出荷対応産地の拡大と、増加した数量を販売する現地の体制を強化した結果、4年度を上回る輸出実績を達成することができた。

<タイ向け輸出実績>

	4年度	5年度
富有柿	7,840kg	14,400kg
天下富舞	0kg	46kg



今後の展望

- 輸出に適した品質保持技術の確立
- 海外での岐阜柿のブランディング化
- 国内加工・保管施設および労働力の確保